

サルタン系降圧剤による前立腺がん予防効果の検討

近年、本邦における前立腺がん罹患数は急激に増加してきている。それに伴い、全国の地方自治体における前立腺がん検診の実施割合は年々高まっている。前立腺がん検診が行われている自治体のうち、98.9%の自治体では前立腺特異抗原（PSA）単独検診である。PSAが高いことは前立腺がんが疑われる。PSA 高値だが前立腺がん未診断である高リスク群に対する有効な発がん予防法はなく、未だに治療法が見つかっていない。現在、サルタン系降圧剤（ARB）に前立腺がんの予防効果がある可能性が示されている。複数の観察研究が既に実施されているが、未だに結論はでていない。本研究では ARB による前立腺がんの予防効果についてレセプトデータを用いて検討する。

本研究では ARB 服用者、その他の降圧剤服用者、非服用者の 3 群での研究を行う。全データを用いた解析とは別に症例対照研究も行う予定である。一般に症例対照研究では 1 つの症例あたり 3-5 程度の対照を選択することが望ましいと考えられているが、曝露群が 3 群以上の研究における最適な症例あたりの対照数は 3-5 以上になることが予想される。卒業研究では 1 つの症例あたりの対照数を変化に伴うリスク比の点推定値、SE の変化について検討する。今発表では、ARB と前立腺がんの発症に関する先行研究の紹介と対照数の選択を検討する上での今後の方針について述べる。

主要文献

Takahashi S, Uemura H., et al. Therapeutic Targeting of Angiotensin II Receptor Type 1 to Regulate Androgen Receptor in Prostate Cancer. *Prostate*, 2012; 72:1559-72

Hallas, J., Christensen, R., Andersen, M., Friis, S., & Bjerrum, L. Long term use of drugs affecting the renin-angiotensin system and the risk of cancer: A population-based case-control study. *British Journal of Clinical Pharmacology*, 74(1), 180-188.

Ury HK. Efficiency of case-control studies with multiple controls per case: continuous or dichotomous data. *Biometrics* 1975;31 :643-9.